

Business

ごみ焼却灰、舗装材に

地域循環でリサイクル

関東道路



■142■

アスファルト合材「エコファルト」を製造し、地元自治体の道路舗装工事などで利用する「地域循環型リサイクル事業」を展開する。情報通信技術（ICT）を活用した建設機械の導入も進め、品質向上や人材育成といった生産性向上につなげる。

建設業の関東道路は道路などの舗装工事や土木建築、産業廃棄物処理など。一般家庭から出た可燃ごみの焼却灰を溶かして固めた「熔融スラグ」配合の再生

同社は1995年、アスファルトやコンクリートといった建設用廃棄物の再利用を目的に、川島工場（筑西市）に中間処理を担う破

砕処理施設を増設した。アスファルト廃材は泥や土を取り除き、再生アスファルト合材の原料に処理。砕石や砂と混ぜることで製品化する。

その砂の代わりに、熔融スラグを10%配合したのがエコファルトだ。筑西広域市町村圏事務組合（筑西市）が運営する「ごみ処理施設「環境センター」（同）に

を計上していた熔融スラグの最終処分費はゼロとなり、これまで13億円以上の経済効果を生み出してきたという。

一方、3年前に導入したICT建機は、道路を平らにする「グレーダー」と、アスファルトを敷き詰める

「ファイニッシャー」をそろえる。いずれのICT建機も自社所有としては県内初だ。道路の設計データを基に自動制御するため、オペレーターの習熟度に左右されることなく施工できる。「ICT建機で舗装工事のAI（人工知能）化をいち早く県内で手掛けた」と武藤社長。今後もICT建機の導入を進め、若手の育成や女性の活躍などにつなげる。



エコファルトなどを製造する関東道路の川島工場。本社と合わせた敷地面積は7万平方メートルに上る＝筑西市下川島

愚直に汗流し働く人

武藤正浩社長

こんな人材が欲しい



愚直に汗を流すことができる人間に勝るものはありません。そういう人間を一番必要としています。前向きに捉えられる人、不器用でもしがみつくことができる人であれば、信頼できる人間性は確実だと思っています。（仕事は）見よう見まねから始まります。まずはやってみることで。資格支援制度もありますので、どんどんスキルを上げてもらいたいです。仕事に対し、愚直に取り組む人は、常にしっかりと仕事が見られるということです。真面目にやっていたら、それに見合うものが得られるはず。そういう人は絶対評価されるし、信頼を得られます。

■企業データ■

- 〈設立〉1972年6月
- 〈資本金〉2000万円
- 〈本社〉筑西市下川島
- 〈従業員〉48人（1日現在）
- 〈売上高〉約17億円（2021年8月期）

「ICT建機は、道路を平らにする「グレーダー」と、アスファルトを敷き詰める再生可能エネルギーを推進する企業として、国連の持続可能な開発目標（SDGs）への貢献にも注力していく。（小野寺晋平）



わが社のあの時

宮城県にあるゼラチン専門メーカーで、数々の試練を乗り越えてきた。1941年、捕鯨業が盛んだった石巻市で、故稲井善夫氏が宮城化学工業

ゼラチン 世界初のゼラチン製造

所を設立。海に廃棄していた鯨の頭部を活用しようと、鯨のコラーゲンを原料とした世界初のゼラチン製造に成功した。

ゼラチンの用途は写真から工業、医薬へと拡大。53年発売の家庭用ゼラチンパウダー「ゼライス」はゼリーなど

が手軽にでき、冷蔵庫の普及を追い風にヒットした。

長年の研究を経て、独自成分のコラーゲン・トリペプチドを開発。塗ると皮膚から浸透し、食べると素早く吸収されるのが特徴だ。飲み物に溶かす機能性表示食品「摩擦音ケアにひざ年齢」や美容製品に活用している。

80年代後半の商業捕鯨中止を背景に、ゼラチン原料を牛由来や豚由来などの成分に変更。安定的な供給につながった。東日本大震災では、落成したばかりの新工場を津波が襲った。余震の恐怖と闘いながら、3カ月で出荷再開を果たした。「今後も多くの方の生活が良くなるよう、力を注ぎます」



個人が自

企業などを介さずに、個人が自作の映像や音楽などのコンテンツを作ってインターネット上に配信し、直接収益を得る「クリエイターエコノミー」が拡大している。デジタル化の流れが市場拡大を後押しし、商機と捉えた大手ネット企業は、作り手を囲い込むところ

クリエイターエコノミー

就活



ゼライスの機能性表示食品「摩擦音ケアにひざ年齢」